

よつやくSDGsが少しわかってきたところで、前からSDGs的な学びと働きを実践している人たちを紹介します。

## 子どもたちの未来をSDGsのゴールにつなげる



上記目標以外にも多数の目標に取り組んでいます



松井田北中学校  
岩崎 聡 校長

**松** 井田町にある松井田北中学校。全校生徒数28人の小規模な学校ですが、以前からSDGsに積極的に取り組んでいます。

「校庭に学校農園があります。生徒はそこで食物を育成し、収穫祭をし、地元の人たちにおふるまう、という伝統を受け継いでいます」

と今年度赴任した岩崎聡校長は話します。

「自分たちで作る、そこで食物の大切さも学ぶので食べ残しの量が少ないんです」と続けてくれたのは、誠一教頭です。

北中学校では、もともとユネスコスクールに市内でいち早く平成29年に加盟承認され、SDGsの取組に対して4つの柱をつくり推進しています。

1. 勤労生産学習
2. 地域貢献活動
3. 人権学習
4. 食育

食を中心に、それぞれの柱が互いに関連し合っただけでなく、食に関する工夫されています。

昨年度は保健委員会で食について学ぶ機会を設けました。

「食を食べることの大切さやよろこびを感じて、みんなが安心して食べられるよ

うな世界にするために、自分たちに何ができるか考える機会となりました」

「残さず食べて、無駄にしない」

「十分に食べられない人は普段どのような生活を送っているのか知りたい」という感想を持っていったそうです。

また、北中学校は人権教育にも力を入れています。

岩崎校長は続けます。「コロナ禍で、差別や中傷のないようSNSなどのリテラシーを教えることも重要と考えます」

今後の取組を伺うと「SDGsのために何か新しいことをやろうというのではなく、自分たちが今やっていることがどうSDGsの17のゴールにつながっていくか、さらに子どもたちにも意識してもらおうことが大事だと思います」

と岩崎校長は力強く答えてくれました。

北中学校の地域に根付いた取組は、これからの未来を担う子どもたちがSDGsを自分ごととして受け止め、考えるきっかけになっていると感じました。

1 : 勤労生産学習での芋掘り

2 : 合同保健委員会でのグループ発表